

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成
--------	----------------------

重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育による開かれた学校づくりを推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
2年度目標					2年度評価(月日現在)		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】授業や資格取得に対して主体的に取り組む生徒は増加傾向にあるが、自発的な学習に取り組む生徒が少ない。 【課題】主体的・対話的な言語活動の伴う授業や、資格取得に積極的に取り組める環境を整え、学習意欲の向上と共に、自ら考える力を引き出す必要がある。	学習意欲の向上を目指した授業改善を図る	①学力養成委員会と学年が連携し、生徒の実態に合わせた課題と学習形態を検討し実施する。 ②各教員が、「主体的で対話的な深い学び」を引き出す授業に取り組み、実践内容を踏まえ教員研修会を実施する。	①生徒アンケートで、「自主学習することが習慣化している」が前年度(27%)より上昇したか。 ②生徒アンケートで「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度(77%)より上昇したか。				
		資格取得に向けた指導の充実を図る	①各教科・学科が、資格取得に向け補習等を計画的に実施し、充実させる。 ②各教科・学科は、生徒や保護者に対し積極的に資格取得に関する情報を提供する。	①生徒アンケートで「資格取得が充実している」が前年度(79%)より上昇したか。 ②資格取得に向けて、取り組む生徒が前年度に比べて上昇したか。				
2	【現状】昨年は遅刻者数が増加し、基本的生活習慣の改善が求められる。また、他者や社会にとの関わり方に課題を抱えた生徒がいる。 【課題】基本的生活習慣の改善と規範意識の醸成を図るため、教育活動全体をととした指導を行うことが必要である。	基本的生活習慣の定着および、自己肯定感の醸成を図る	①生徒指導部と学年が連携し、遅刻防止指導を組織的に行う。 ②生徒指導部通信を活用し規範意識の醸成を図り、学校を誇りに思える生徒の育成を行う。	①年間遅刻数が前年(1105人)を下回ったか。 ②生徒アンケートで、宮工を誇りに思えるとの回答が70%を超えたか。				
		5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の定着を図る	①特別支援教育委員会を中心に、自己管理能力の育成に努める。 ②5S活動の定着を図るため、生徒会を中心とした諸活動において啓蒙活動を実施する。	①生徒手帳の活用調査で、行事や授業における活用状況割合が50%を超えたか。 ②生徒アンケートで5S活動に取り組めたとの回答が65%を超えたか。				
3	【現状】進学、就職の進路状況は充実しており、自己実現に向けて行動力を持った生徒が増加する兆しがある一方、計画力に乏しい。 【課題】自己実現に向けて継続的に取り組む態度を身に付けた、社会性のある人材の育成が求められている。	社会人基礎力の向上を図る	①学習活動や部活動、学校行事とおして、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を育成するために、計画的に取り組む。 ②各教科・学科と学年は、学校における諸活動を通じて、生徒が将来の目標に向けて前に踏み出す力の育成を図る。	①生徒アンケートで委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加したかが70%を超えたか。 ②部活動加入率の向上や資格取得に取り組んだ者、または取得者が増加したか。				
		地域の教育力を活用し勤労観の醸成を図る	①進路指導部、体験活動委員会が中心となり、学年と連携しインターンシップや進路ガイダンス、外部講師による講話などを実施する。 ②各教科・学科と学年は、生徒の活動の成果を発信する機会をつくり、表現力や傾聴力の伸長を図る。	①進路実現に対する意識が強くなり、進路行事に積極的に参加する生徒の割合が80%を超えたか。 ②課題研究発表会やインターンシップ発表会などを、他学科や他学年、外部向けに実施できたか。				
4	【現状】地域、企業との連携による協働教育は浸透しつつある。一方、情報発信が少なく、本校の魅力を十分に伝えられていない。 【課題】地域と学校の信頼関係の深化を図り、地域とともに人材を育成する協働教育を一層推進する必要がある。	学校が地域社会に貢献する取り組みを実践し、学校への理解を深め必要性が高まるよう努める	①地域と連携した取り組み(チャレンジスクール、出前授業等)を実施し、地域社会とのつながりを深める。 ②各分掌、部活動等はホームページの更新やその他刊行物の定期的な発行・配布など広報活動を積極的に行い、学校の魅力を発信する。	①地域との連携を深める取り組みを年5回以上実施できたか。 ②学校説明会や学校行事等への来校者数が増加したか。				